

踏み跡 <My Mountains>

九州(久住)	法華院温泉から久住各山	No.187
--------	-------------	--------

九州アルプスと呼ばれているからには、何としても登っておかなければならないのが久住。恩田がわざわざ東京から登りに来るということになり、大きな課題をクリアすることになった。遠来の客をもてなすには・・・ということで、少々遠回りではあるが、熊本・阿蘇経由で阿蘇の火口原をドライブしながら長者原へ入ることにした。



昭和55年5月16日 <自宅→大宰府 IC→熊本 IC→阿蘇→長者原→法華院温泉>

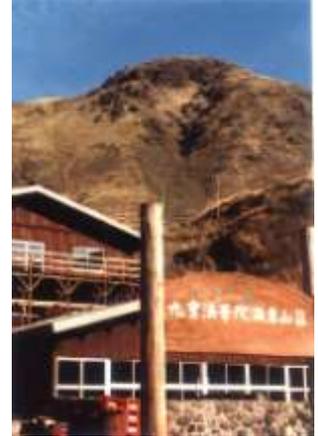
昨晚福岡入りした恩田は当家に一泊。福岡の天気予報は曇り時々晴れ。のんびり遅めの8時25分出発。大宰府インターチェンジから九州自動車道に入り熊本へ。熊本で九州自動車道を下りて阿蘇に入ると晴、更に仙酔峡に着く頃には快晴になり、東京からの来客を案内するには絶好の阿蘇ドライブが実現した。阿蘇の複式火山としての形を味わうのには申し分のない眺め。仙酔峡で昼食をとり、登山口の長者原に15時に到着。ここは海拔1040mぐらいか。快晴でもう文句の言いようがない。身支度を整えて15時30分に出発、いよいよ憧れの久住入りだ。正面に門番のように大きく立ちはだかる三俣山の北側の谷をじっくり登って行くと景観同様に気分も段々



盛り上がってくるから不思議だ。(右写真) 振り返れば長者原とその向こうに泉水山・黒岩山、正面遠方に湧蓋山、その右には万年山。(左写真) 雨ヶ池越(海拔1300m余)16時55分、大船山、平治岳が目の前に、そして足元にはイワカガミ。池の水

踏 み 跡 <My Mountains>

面に映る山並み、時間が遅いせいか見渡す限り人影は見え、山は貸し切りの状態。
三俣山の腹を巻くように坊ガツルへ下って行く。久住へ入ったという実感がわき上がる瞬間だ。
「坊がつの讃歌」の歌詞に出てくるようにまさに「四面山なる坊ガツル」だ。
(下左写真：坊ガツルへ向かう・立中山・銚立峠・白口岳) (下中央写真：坊ガツルと平治岳)



法華院温泉山荘 18時05分着、ここは海拔1300m。(右写真)
二泊分(一人8,000円)を払って、初日の行程は終了。

昭和55年5月17日 <法華院温泉→大船山→法華院温泉→九重山→中岳→法華院温泉>

7時起床、天気は快晴、宿の朝飯を食べて8時に出発。荷が軽いと気も軽くなる。
坊ガツルから真東に大船山へ突き進むように登って行く。高度を上げるにつれて久住の山々が勢ぞろいして
歓迎してくれる。(下写真：勢ぞろいした久住連山 白口岳～久住山～三俣山)
北端の三俣山は威風堂々、以下それぞれの山がそれぞれの風格で立ち並ぶ姿は壮観だ。



頂上直下のミヤマキリシマ群生地はまだ満開には至らず「山くれないに大船の・・・」
とは行かなかった。

大船山9時50分、この景色で休憩しないわけにはいかない。

稲星山の左に阿蘇連山が、中でもひととき目立つのが烏帽子岳・高岳・根子岳、そ
の左に目を移していくと祖母山・大障子・大崩山・傾山などなど。

稲星山から右に視線を移していくと米窪の向こうに英彦山・犬ヶ岳・大岩扇山、そして由布岳と鶴見岳がし
んがりを押さえている。ガイドブックで覚えたばかりの九州の名山たちが一斉に姿を見せてくれ、まるで呼
び込みをされているような気分になる。「次はあの山へ・・・」の気持ちになってくる。



右手に米窪を見下ろしながら火口の縁を歩いた後、右
手に黒岳、正面に平治岳を見ながら大戸越へ下り法華
院温泉に戻った。(右写真：米窪と由布岳・鶴見岳)
ひと休みの後、14時05分久住山をめざして午後の部
スタート。



沢沿いの巻き道を30分ほど登ると、にわかに平坦な
ところに飛び出た。北千里浜という砂礫の平地。

北千里浜を過ぎた後は、ひととき大きい三俣山を背にして小さな窪みをつめてしばらくで久住山の山頂に到
達した。時計を見ると15時30分。ここでもまた素晴らしいパノラマが待ち構えていた。阿蘇、祖母、津江、

踏み跡 <My Mountains>

英彦山、鶴見岳、由布岳・・・約 30 分景色を堪能しながらの休憩。(下左写真)



中岳 (1790.3m)
16 時 40 分。
御池の水面の輝きが周囲の景色も相まって美しい。(右写真)
白口沢に沿って

北北東へ下り、17 時 45 分法華院温泉に帰着。素晴らしい景色の一日だった。
宿の夕食のメニューは昨日と同じだった。

昭和 55 年 5 月 18 日 <法華院温泉→硫黄山→スガモリ越→長者原→湯布院→日田・甘木経由→自宅>

起床 7 時、今日も天気は快晴。早いもので、旅は最終日になってしまった。8 時 10 分に出発。
最終日を楽しむことにし、ゆったりと楽しむことにした。

まずは北千里浜で長時間の休憩をとり、その中で硫黄山の往復。硫黄採石場跡の噴出する湯気と熱気と匂いの中を歩き、生々しい「火山の生きた香り」を味わうことができた。(下左写真)



大きな三俣山の南側下山路のスガモリ (諏蛾守) 越に登り、最後の景観を楽しむ。ここは海拔 1500m、後ろの久住の連山もさることながら、目の前にも久住前衛峰の黒岩山・泉水山から湧蓋山・万年山などがずらり

と並び、実に壮観。(上右写真：万年山を見ながら長者原へ下る)

下山の途中、笹の原で最後の昼食。11 時 20 分から 12 時 30 分まで、これまたゆったりと休憩。

長者原で顔を洗って車に乗り込み、湯布院へ移動。

山下池で二度目の昼食 (うどん) を食べ、湯布院で再びコーヒータイム。旅を振り返ってのしばしの雑談の後、16 時に湯布院を出発。恩田と別れて、彼は大分へこちらは福岡へ。

帰路は一般道を通してドライブすることにし、水分峠を越えて日田、甘木経由で 130Km の旅。自宅に着いたらちょうど 20 時だった。

懸案事項を解決した安心感と満足感に包まれた晩だった。久住に登ったということで、九州の山歩きが三歩も四歩も前へ進んだような感じがした。

以上